

1. しばらくするとあなたがたは、もはやわたしを見なくなります。しかし、またしばらくするとわたしを見ます。」そこで、弟子たちのうちのある者は互いに言った。「『しかし、またしばらくするとわたしを見る』、また『わたしは父のもとに行くからだ』と主が言われるのは、どういうことなのだろう。」(16:16-17)
 - a. 弟子たちがイエスの証言によって当惑したのは、イエスがこの世を去ることが彼らの理解の域を超えていたからである。彼らは神様が何をどのようにされるかということをおおむねは想像していたが、イエスがおっしゃったことは彼らの考えの領域外だったので理解できなかった。
 - b. 私たちも神様のことを理解しようとする時同じような考え方をしないように気を付けたい。私たちは皆、神について、またその計画や方法について何らかの先入観を持っており、正しい理解もあるだろうが間違っただけのものもあるということを知っておかなければならない。私たちが時には間違っているということを認めないのはプライドの一部であり、ここで見られるように霊的に鈍感になる原因の一つである。
 - c. イエスの証言の意味に戻るが、いくつかの可能性が考えられる。ところがイエスはそのうちのどれにも言及せず、ご自身に従う決断をする者はこの世で耐え忍ばなくてはならないという忠告を与える。
2. まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜ぶのです。あなたがたは悲しむが、しかし、あなたがたの悲しみは喜びに変わります。女が子を産むときには、その時が来たので苦しみます。しかし、子を産んでしまうと、ひとりの人が世に生まれた喜びのために、もはやその激しい苦痛を忘れてしまいます。(16:20-21)
 - a. まず最初の警告は、それは容易なことではないということである。あなたは大声で泣き叫ぶほどの苦しみを味わうというのである。たいていの場合、神様からの約束には楽ではないという注意書きが付いている。楽ではないというだけでなく、周りにはあなたの苦しみを見て喜び踊る人たちもいるというのである。
 - b. イエスが教えておられることは、苦しみに約束されているわけではないが、約束を受ける際の不幸な副産物だということである。ただしこの約束が実現する時は、苦痛をはるかに上回る喜びを産むのである。大きな約束ほど大きな苦しみがあるが、喜びも大きい。
 - c. 神から大きな約束を受けた私たちは、大きな試練と患難に耐えながらその約束を守り続けなくてはならない。まだその覚悟ができていないのなら、神様が与えてくださったものを放棄しなければならない。
3. その日には、あなたがたはもはや、わたしに何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが父に求めることは何でも、父は、わたしの名によってそれをあなたがたにお与えになります。あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。(16:23-24)
 - a. イエスが弟子たちに守るように命じた約束は、しばらくしてまたイエスにお会いする時には直接父なる神のみもとに行くことができる、ということである。
 - b. この直接的つながりによって弟子たちはイエスの御名によって父なる神に祈ることが可能になる。このイエスの御名によって祈るということは、ただ祈りの最後にその文句を付け加えるということではなく、聖霊を通してイエスというお方にとどまることである。
 - c. イエスにとどまることができるようになると豊かな喜びが伴う。しかしイエスにとどまりその約束を守ることは多くの試練と患難を通過することが求められる。私たちがイエスに信頼し、イエスに信仰を置き、イエスにとどまる時、その約束は私たちの人生に真の喜びをもたらす。そしてイエスの御名によって祈る時それを受けることができるのである。